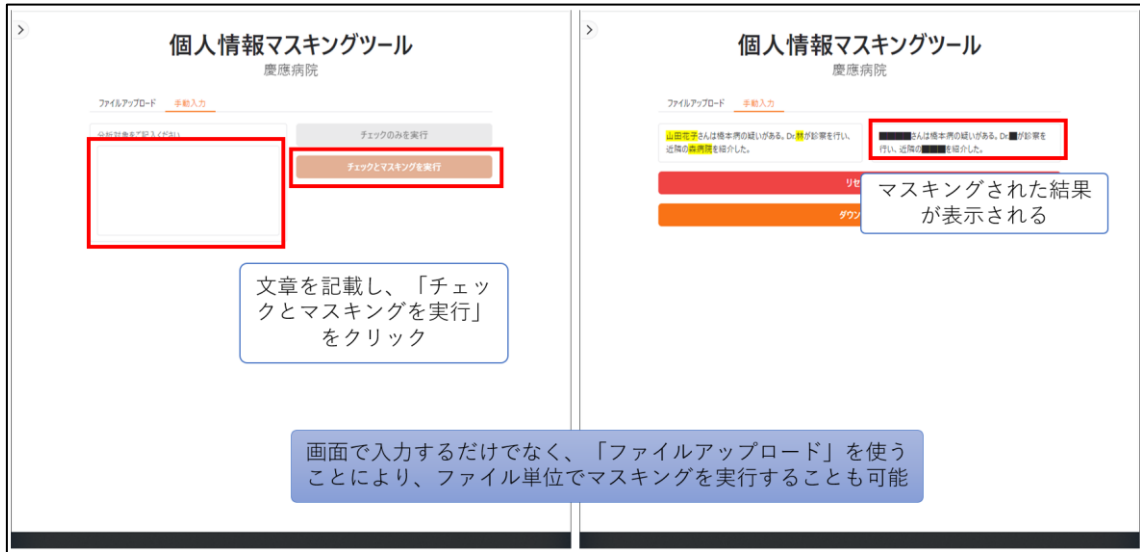


慶應義塾大学緊急医療体制支援特別事業

● 2025 年度

- ・ 2020 年度より引き続き、消化器内科および救急科にて 2 名の医師を採用しました。
- ・ ローカル LLM（生成 AI）を活用した個人情報識別システム構築を行いました。

ローカル LLM（生成 AI）を活用した個人情報識別システム構築（画面イメージ）



【内容】

医療情報を持ち出す際に、医療個人情報が含まれていないかをチェックするツールを委託開発した。従来プログレスノートなど文章で記載されているものに個人情報が含まれているかをチェックするのは手間がかかっていたが、それを生成 AI でチェックを行う。これにより個人情報を含まれた情報が院外に出ないよう、ローカル環境に構築された LLM でチェックがなされるようになった。

—2025 年度採用医師の当該年度における主な活動内容—

消化器内科

診療

- ・ 消化器がん患者に対し、外来・入院による化学療法を中心としたがん診療を担当
- ・ 週 3 回の専門外来、週 3 回の腫瘍症例相談窓口を担当し他科からの電話相談にも対応
- ・ 年間 200 名以上の外来患者を診察し、入院では常時約 10 名の患者を主治医として担当
- ・ 腫瘍病棟カンファレンス、腫瘍外来カンファレンスに加え、上部・下部クラスター、膵臓、大血管浸潤などの診療科横断的カンファレンスに積極的に参加

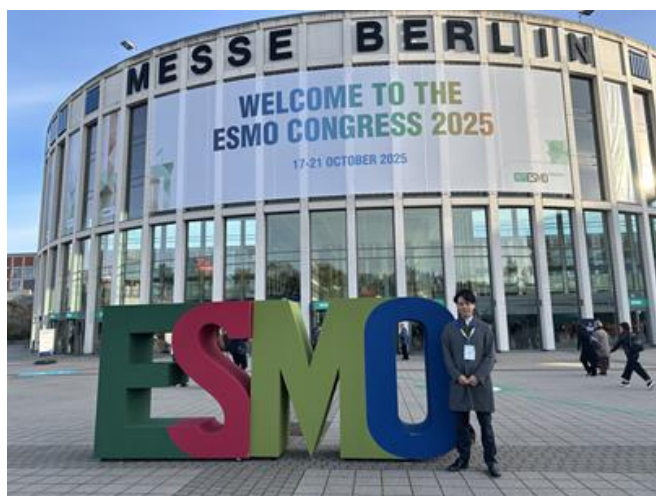
- ・各種カンファレンスでオピニオンリーダーとして意見を述べ、診療方針の検討に貢献
- ・免疫チェックポイント阻害薬による有害事象（irAE）腸炎について、自科・他科を問わず依頼症例すべてに併診対応し、副作用管理に尽力

教 育

- ・腫瘍グループをローテーションした医学部学生に対し、診察指導、カルテ記載の添削指導、スライド作成の助言を実施
- ・6年生を対象とした Post-CC OSCE で評価者を務め、臨床能力の客観的評価に携わる
- ・基礎研究では、消化管免疫を研究テーマとする博士課程大学院生に対し、実験計画の立案、技術的作法、研究の進め方を指導

研 究

- ・診療経験を生かした臨床研究と、腫瘍免疫に関わる基礎研究を並行して実施
- ・臨床研究では、GIST、食道癌、胃癌などを主な対象として研究を計画・実行
- ・食道癌の腫瘍局在ごとの遺伝子変異傾向を初めて示し、胸部中部に多い NFE2L2 変異と予後との関連を示した論文（Chida A, et al. Int J Clin Oncol. 2025）を執筆
- ・多施設共同前向き研究（WJOG）として、胃癌 3 次治療以降を対象とした FTD/TPI+ニボルマブ療法の単群 Phase II 試験「ANTIEqUE 試験」を計画中で、2026 年 4 月より症例集積開始予定
- ・基礎研究では、腫瘍中 effector Treg に特異的に発現する新規遺伝子を同定
- ・同遺伝子が Treg の運動能および免疫抑制機能に関与することを、二光子顕微鏡による in vivo イメージング解析で明らかにした
- ・国内外の研究者との連携にも積極的に取り組んでいる
- ・2025 年 9 月 18 日～20 日に沖縄科学技術大学院大学（OIST）を訪問し、複数の研究室と研究成果について意見交換を実施
- ・2025 年 9 月 16 日～21 日にドイツ・ベルリンで開催された欧州臨床腫瘍学会（ESMO）に参加し、最新の国際的知見を収集するとともに、臨床・研究両面のネットワークを強化
- ・今後も臨床および基礎研究の両面から、消化器腫瘍診療の発展に継続して貢献する方針



救 急 科

診 療

- ・救急外来で一次～三次救急搬送まで幅広く対応
- ・患者滞在時間の短縮と診療効率改善を重視した運営を実施
- ・毎勤務平均 10 件以上の応需を継続し、救急診療の質と患者満足度向上に寄与
- ・HCU 管理に加え、今年度より麻酔科と協働して ICU 診療を開始
- ・入院重症患者の受け入れ体制強化に貢献
- ・持続脳波計 (cEEG) を活用し、神経集中治療体制を整備
- ・敗血症性ショック、呼吸不全、意識障害など重症例を主治医として担当
- ・各診療科と連携し、早期診断・早期治療を徹底して予後改善に貢献
- ・救急科入院患者の診療にも担当医として従事
- ・カンファレンスを通じた治療方針整理やチーム医療推進に寄与

教 育

- ・救急・集中治療領域の教育活動に積極的に参画
- ・救急科カンファレンス、ICLS 講習、Journal Club の運営・講師を担当
- ・教育体制の充実に貢献
- ・学生への臨床実習指導や講義を実施
- ・希望学生との自主研究を主導
- ・研修医向けランチョンセミナーで人工呼吸管理のレクチャーを担当し分かりやすく臨床に即した内容で好評を得た
- ・多職種・多段階教育における知識共有と指導体制強化に取り組んだ

研 究

- ・心停止後脳障害に対する NMN の有用性に関する基礎研究を継続
- ・論文報告 (PLoS One. 2025;20:e0334608.)
- ・心停止後脳障害の基礎研究に関して、日本集中治療医学会学術集会、AHA Resuscitation Science Symposium 2025、学内リトリートで研究発表
- ・研究内容が高く評価され、研究助成金（科研費、学内リトリート）を獲得
- ・心停止後脳障害の新規神経保護戦略の確立を目指して研究を発展
- ・心停止蘇生後低体温療法における至適冷却速度に関する臨床研究を実施し成果を日本救急医学会学術集会で発表
- ・基礎・臨床双方から心停止後患者の予後改善に資する研究を推進



AHA Resuscitation Science Symposiumにて発表する様子